

## 大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択）中間評価結果の総括

令和 3 年 3 月 5 日

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

この度、本事業において平成 30 年度に採択された 10 件のプログラムの令和元年度までの取組状況等について、中間評価を実施した。

今回、中間評価の対象としたプログラムは、「COIL 型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援」として、質の保証を伴った交流プログラムを実施するタイプ A（交流推進プログラム）9 件と、自ら交流を実施しながら、蓄積された知見や経験等を集約し、選定大学をはじめとした全国の大学等の活用に資するプラットフォームを構築するタイプ B（交流推進、プラットフォーム構築プログラム）1 件である。

今回の評価では、新型コロナウイルス感染症の世界的な発生により、国境を越えた移動が制限される中で、各大学の国際化に向けた工夫や改善についても評価するため、新たにオンラインによる交流も一部実績に含める等の措置を講じた。また、感染拡大防止の観点から、評価に係る全ての審査・調査等をオンラインで実施する対応を採った。

結果は、S（「優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる」）が 1 件、A（「これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」）が 8 件、A-（「これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」）が 1 件となった。

なお、本評価においては、A が標準的な評定である。

中間評価を通じて認められた特筆すべき取組内容は、以下のとおりである。

- 本プログラムが大学の中期計画に位置付けられ、大学全体の取組として順調に推移しており、COIL 型事業を将来的に米国の大学のみならず、欧州の大学や海外キャンパスにも拡大する予定である。
- オンライン教育に関するマニュアル等の整備により、全学早期オンライン授業化に貢献した。
- 産学連携の一環として、企業からメンターを受け入れ、最先端の業界の知見を吸収した。また、プログラムにおける学生の成果物が学外のコンペティションで入選した、企業から商品化の打診を受けた等、成果の社会的な普及がなされた。
- 個別大学の取組として、COIL 型授業科目を国内の他大学にも開放するなど、国内大学への COIL 型事業の展開がなされた。
- JPN-COIL 協議会と Institute for Innovative Global Education (IIGE) を設置するとともに、COIL 型教育の認知度向上を目的とした数多くの国内外のセミナーを活用し広報活動や情報発信を行うなど、プラットフォームとしての積極的な取組がなされた。

各プログラムにおいては、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルとなるべく、今後も目標達成に向けて着実に取組を推進していくとともに、評価結果に付された本委員会からの意見や指摘を踏まえ、更なる改善・発展に努めることが求められる。また、補助期間終了後の自立化を見据えて、環境整備や雇用した教職員の処遇などの検討を進めることが不可欠である。

昨年度末に発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックはグローバル化の状況を一変させた。国際的な移動を伴う学生交流は停滞し、各国の大学でキャンパスから人がいなくなる事態が見られた。このような状況においては、自国にいながら質の高い国際的かつ双方向的な教育活動、すなわち COIL 型教育の意義は大きいと言える。国際的な学びや交流、研究を止めないウィズ・ポストコロナ時代の国際教育においては、リアルな教育・交流の価値を高めるためにも、オンラインを活用した教育・交流の可能性を如何に引き出すかがさらに重要となる。教育設計（カリキュラム）に基づき、PBL などの協働学習を海外大学の科目と連携して行うことを通じて教育の質を確保する COIL 型教育は、その鍵を握る教育手法の一つといえる。本事業の採択大学においては、オンラインを活用した我が国の高等教育の国際教育・交流の環境の先駆的取組みを実践・普及する役割が強く期待される。

大学の世界展開力強化事業（平成30年度採択）中間評価結果一覧

| 交流先国 | タイプ | 設置区分 | 整理番号 | 代表大学名                | 事業名   | 評価             |
|------|-----|------|------|----------------------|---|----------------|
| 米国等  | A   | 国立   | AA01 | 千葉大学                 | COILを使用した日米ユニーク・プログラム   | S              |
|      |     | 国立   | AA02 | 東京大学                 | 日米のCOIL型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム                            | A <sup>-</sup> |
|      |     | 国立   | AA03 | 東京外国語大学、国際基督教大学      | 「多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践」                         | A              |
|      |     | 国立   | AA04 | 東京藝術大学               | 日米ゲームクリエイション共同プログラム - メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -                      | A              |
|      |     | 国立   | AA05 | 鹿児島大学                | 米国から鹿児島、そしてアジアへー多極化時代の三極連携プログラム                                   | A              |
|      |     | 国立   | AA06 | 琉球大学                 | 「COIL型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」                       | A              |
|      |     | 公立   | AA07 | 大阪市立大学               | 日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム                                       | A              |
|      |     | 私立   | AA08 | 上智大学、お茶の水女子大学、静岡県立大学 | 人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発                          | A              |
|      |     | 私立   | AA09 | 南山大学                 | 日米をつなぐNU <sup>4</sup> -COIL <sup>2</sup> ～地域に根ざしたテイラーメイド型教育プログラム～ | A              |
|      | B   | 私立   | AB01 | 関西大学                 | グローバル・キャリアマインドを培うCOIL Plusプログラム（交流推進プログラム部分）                      | A              |

※タイプA：交流推進プログラム タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

参考：評価区分

|                |   |
|----------------|---|
| S              | 優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。   |
| A              | これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。                                    |
| A <sup>-</sup> | これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。                                  |
| B              | 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。                                    |
| C              | これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取組があると考えられ、成果を見込めない取組については縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。 |
| D              | これまでの取組状況等に鑑み、事業目的の達成は著しく困難と考えられ、財政支援の中止が妥当と判断される。                          |